

千寿の郷 かわら版

■ ホームページ → <http://senjyunosato.kenwa.or.jp>

■ Twitter → <https://twitter.com/senjyunosato>

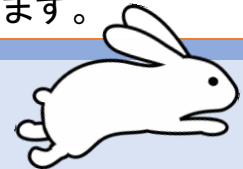
【千寿の郷ブログ】
絶賛更新中

ホームページよりアクセスしてください!!

いくぶん残暑も和らぎ、しのぎ良い日が多くなりました。

夏の疲れは出ていらっしゃるいませんか。

今回のかわら版は3階入所中の利用者様の経験談のご紹介を行います。



「線路を引いて、人と国をむすぶ」



「大変だったけど、楽しい仕事だったよ」と熊谷邦芳さんは、昔を懐かしく思い出しながら語りました。

熊谷さんは昭和32年、岩手県の盛岡で産声を上げました。宮城県の仙台で高校を卒業、青森の八戸で住宅を売る仕事をしていました。当時はバブルで景気が良くかなり高く家が売れたそうです。

1987年、30歳で離婚し東京に出てきてからは軌道工として働きました。軌道とは電車の線路のこと。線路を引くのは大変きつい仕事でしたがとても高収入だったそうです。特に印象に残っているのは、台湾の高速鉄道の線路を引いた時のこと。日本の新幹線の技術が台湾でも生かされたのです。

台湾から日本への発注で三井物産が請負い、熊谷さんは元請けの会社で仕事をしました。中国から材料を輸入し、台中、台北、台南の三か所に大量に運び込まれた時は圧巻でした。「あれはすごかったなあ」熊谷さんは、にこやかな笑顔で語りました。環境破壊には厳しい台湾では、日本のようにはトンネルが掘れずに苦勞したそうです。

三井物産の社員は中国語と英語を使いこなし、台湾の政府と契約書を交わします。熊谷さんも英語で話して会議に加わったそうです。かっこいいですね。

国内では地下鉄大江戸線の線路を引く工事に関わりました。これには大変な苦勞があったと言います。東京都の予算が少ないために、路線の半分を請け負っていた企業が手を引いたのです。それでも仕事を継続してくれた熊谷さんのおかげで大江戸線が開通したんですね。

休日は1年にたったの3日。仕事の後はいつも飲みに行っていたそうです。目を細めて笑う熊谷さんの軌道工としての人生を教えてくださいました。



看護師 齊藤みゆき



イベント食

つけ麺



手作り
水羊羹



手作り
プリン



どれも大好評で、『また食べたい』という
声をたくさん頂きました！

季節の貼り絵&柱飾り

2階



3階



食欲の秋ですね。トンボの
表情も可愛らしいです★



「お月見か、9月なんだねえ」とお話さ
れながら作成されていました。

言標

《長月》

秋桜ら コスモスの花 ゆれてをり

通所利用者 三上 静子様

海原や 真赤に染めて 夕日沈みて

入所利用者 青木 シヅエ様

赤蜻蛉 暑さの夏も 連れて行け

そよ吹ける 風にささやく 蟬の声

恐きもの 昔ころりで 今コロナ

入所利用者 青田 武志様

